

別紙様式

令和7年度 宇部市立東岐波小学校 学校評価書 校長(佐野 英之)

1 学校教育目標
1 学校教育目標
教育目標……ふるさと東岐波を愛し、夢の実現に向けて意欲的に学ぶ子どもの育成
～(い)ちを大切に、知・徳・体の調和のとれた生き力を育てる特色ある学校～
中・長期目標……自ら 社会とかかわり 自分を生かす 東岐波っ子の育成 ～10年後の地域・社会を支える存在を育てて～(小中一貫教育目標)

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)
○学力向上や学習習慣の課題について
・各学年とも学力に関して課題があり、引き続き学力向上や授業改善に向けた研修の充実とともに、保護者・地域と一体となった取組も必要である。さらに、特別支援教育の視点に基づくユニバーサルデザインの手続きや自由進度学習、補充学習等を取り入れ、誰一人取り残さない学習指導を行うことが求められる。
・家庭学習の時間が短かったり、宿題を忘れていたり、目的が十分に達成できていない、ICTを積極的に活用し、児童自らが主体的に学習する習慣と家庭の協力がより求められる。
・体験を重視した小中の両方の地域連携カリキュラムを「東岐波PRIDE」の含めると、児童、保護者、地域へより一層周知し、PDCAサイクルに基づいて検証するとともに実施し、付けたい力を常に意識した学習活動の展開が重要である。
○生徒指導上の課題について
・児童が生活目標を自分事としてとらえ、達成状況を主体的に判断するよう指導を継続し、教育活動全体で自己肯定感や自己有用感を育むことが引き続き大切である。
・小さなトラブルは日々見られ、目標への意識が薄い児童もいる。学級担任、生徒指導・教育相談担当等との密接な連携を基に、チーム東岐波による学年支援体制や全校支援体制の一層の充実と家庭への協力を図る。
・いじめ、不登校等の未然防止のため週1回の生活アンケート等による児童のサインの早期発見・早期対応に継続して努めるとともに、情報共有と組織的な対応を図る。また、ふれあい教室の運営を充実させる。
○業務改善の課題について
・時間外在校時間は短縮傾向にあるが、月45時間を超える教員も一部おり、依然として厳しい状況にある。校務のICT化とともに、さらなる業務改善が引き続き必要である。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題
■1 小中一貫教育で、学力の向上を図る。(地域連携教育の充実、東岐波PRIDEの醸成、授業の「めあて」と「振り返り」、ICTの効果的な活用、やまぐち学習支援プログラムの活用)
■2 教員の授業力向上と児童の校内学習の活性化を図る。(単元内自由進度学習・補充学習・教科担任制、巡回授業、交換授業、外研協会の活用)
■3 心に響く道徳教育、人権教育、キャリア教育の充実を図る。(小中一貫教育グランドデザイン取組、家庭・地域との連携強化、人権参観日と講演会の実施)
■4 遅刻、不登校、いじめゼロの学校の実現をめざす。(「ふれあい教室」の運営の充実、関係各所との連携、アンケートの実施)
■5 児童の体力の向上を図る。(1校1取組の推進、体力向上メニューの取組、児童会の主体的な活動、安全教育の充実)
■6 小中一貫教育で、基本的な生活習慣の育成を図る。(小中一貫教育グランドデザインの周知、中学校・家庭と連携した「メディアコントロール」「早起・早起き・朝ごはん」の取組)
■7 保護者・地域の理解と協力を得ながら、時間外在校等時間の削減や働き方改革について検討と改善を図る。(関係各所との連携、業務改善の工夫)

4 自己評価
5 学校関係者評価
評価領域 重点目標 具体的方策(教育活動) 評価基準 達成度 重点目標の達成状況の診断・分析 学校関係者からの意見・要望等 評価
学習指導(知) ○じっくり考え、進んで学習に取り組む子どもの育成 「主体的・対話的で深い学び」を追究し、単元内自由進度学習の取組や補充学習、学力分析結果等を通して授業改善を図る。 ・児童アンケート「授業が分かりやすい」のプラス評価 4 80%以上 3 65%～80% 2 50%～65% 1 50%未満 4 ・保護者アンケート「お子様はタブレットを操作できる」のプラス評価 4 80%以上 3 65%～80% 2 50%～65% 1 50%未満
生徒指導(徳) ○素直で、思いやりのある子どもの育成 ○楽しい学校生活の実現 ・学級の種を結ばず学年や全校的な視野で人権教育や道徳教育、特別活動に取り組む。 ・不登校やいじめの未然防止を図るとともに、学校全体であたためたい人間関係をつくる。 ・児童アンケート「相手を楽しんでいる」のプラス評価 4 80%以上 3 65%～80% 2 50%～65% 1 50%未満
体育・保健指導(体) ○体を鍛え、根気強く取り組む子どもの育成 ○小中一貫による基本的な生活習慣の育成 ・体育科の授業や1校1取組の推進、早朝・早寝・早起き・朝ごはん「メディアコントロール」を推進する。(特に中学校テスト期間中) ・PTAや中学校と連携して「早起・早起き・朝ごはん」の取組を進める。 ・児童アンケート「授業-工夫の体力授業をした」のプラス評価 4 80%以上 3 65%～80% 2 50%～65% 1 50%未満
地域連携 ○家庭や地域との連携、幼児・小中連携による開かれた学校づくり ・「学校・学年・学級だより」HPで各分掌や学年からの情報発信を活性化させ、一層学校を開く。 ・PTAや地域と連携した家庭教育支援の充実を図る。 ・保護者アンケート「学校からの情報発信がきている」のプラス評価 4 80%以上 3 65%～80% 2 50%～65% 1 50%未満
学校の組織等 校務分掌における役割分担・協働 日常的な業務 業務の効率化 勤務状況
業務改善
・校務が集中しないよう、各分掌・学年等で分担し、複数体制で協働したりする。 ・児童アンケート「分担任、協働して業務にあっている」のプラス評価 4 80%以上 3 65%～80% 2 50%～65% 1 50%未満
・年休簿、旅行命令簿、出勤簿などの電子申請化、健康観察アプリの活用、教材・資料等の共有、分掌データの一元管理等、端末の活用をとおして業務を効率化する。 ・児童アンケート「データの管理・ICT活用ができた」のプラス評価 4 80%以上 3 65%～80% 2 50%～65% 1 50%未満
・ICTを活用した勤務管理や会議の縮小、電話対応時間の設定、欠出確認、健康観察アプリによる時間外在校等時間を削減する。 ・児童アンケート「時間外在校等時間の削減に向けた取組が行われている」のプラス評価 4 80%以上 3 65%～80% 2 50%～65% 1 50%未満

6 学校評価総括(取組の成果と課題)
■1・2 学校・地域連携カリキュラムに「東岐波PRIDE」に関わる活動を可視化するため、該当の活動に「きわぞうマーク」付けた。また、地域の広報誌にも「東岐波PRIDE」について掲載していただき、学校と地域で「東岐波PRIDE」の醸成に努めている。また、校内研修では「単元内自由進度学習」を柱として、学習場面での自己調整力の向上と主体的・対話的で深い学びの充実に向け、全職員が協働で取り組んだ。水曜日5校時は「きわぞうタイム」として全校一斉に補充学習に取り組んでいる。
■3 これまでと同様に、道徳教育や人権教育、キャリア教育の充実を図るとともに、人権教育参観日にハンセン病に関する講演会を実施し、児童・保護者・地域の連携による人権意識の啓発に努めた。講演会の参加者が増加するよう引き続き考えていきたい。
■4 ふれあい教室は、不登校の減少に大きく寄与している。引き続きふれあい教室担当と担任をはじめ、生徒指導、養護教諭、管理職等が一体となり、関係機関と連携しながら迅速な対応を行っている。また、今年度は生徒指導・いじめ防止対策推進法の加配により、生徒指導事業の未然防止や教育相談体制の充実につながった。しかし、全児童、保護者の願いに100%応え、常に満足できる学校生活を送ることができていない。これは、依然として課題が残る。
■5 体力向上については、授業だけではなく、委員会の児童が主体となって全校に呼びかけ、休み時間や放課後に体力づくりや縦割り班スポーツ大会などを行い、日常的に運動をする機会を多く設けた。より一層工夫、充実した授業が展開できるよう研修機会を作る。
■6 中学校と連携したメディアコントロールの取組は軌道に乗っているが、メディアを完全にシャットアウトすることは難しい。学校だけでなく家庭の理解と連携した取組が必要不可欠である。また、低学年のうちからメディアを自己コントロールできる力を育てる取組を継続していく。
■7 昨年度に比べ、教職員の時間外在校等時間は減少した。働き方改革の目的は、児童の支援と指導がより一層充実することであることを念頭に、業務改善も含めて、業務の効率化が図れるよう取り組むたい。

7 次年度への改善策
○1・2 「東岐波PRIDE」を今以上に児童と保護者、地域に周知徹底していく必要がある。地域教材、地域人材を知り、総合的な学習を核とした教科横断的な学習を成立させていきたい。小中一貫して9年間「地域で学習する」視点をもてるよう、研修の機会を充実させる。また、「単元内自由進度学習」の取組を継続し、校内研修を活性化させ、児童の学習意欲と学力向上につなげたい。さらに水曜日5校時の補充学習「きわぞうタイム」も充実させ、学力向上をめざす。
○3 児童が地域行事へ積極的に参加し、多くの人とかわりながら、さまざまな体験を通してよりよい道徳観や人権感覚が身に付けられるよう引き続き取り組んでいく。また、その取組を地域貢献活動にも発展できるように努力する。地域での体験活動が、児童主体となった活動になるよう場の設定や内容を精査していく。
○4 「ふれあい教室」の環境をよりよく整え、教育相談や不登校児童・保護者への支援の充実を継続していく。また、教職員全員が同じ歩調で児童に指導ができるように、指導事項の共通理解の徹底を図るとともに、情報の共有について正確かつスピーディー感をもって行い、温かくも冷静な対応に努める。さらに「いじめ問題対策委員会」や「教育相談週間」等をより一層有効に生かすことができるよう工夫していく。
○5 学校保健安全委員会や学校アンケート等で示された生活習慣と体力向上の課題をPTA総会、PTA広報、学校だより、地域広報紙、学校HP等を通じて情報発信に努め、家庭・地域・学校が共通の目標をもち、地域の子とも育てる気運の醸成と有効な取組の展開を継続して行く。
○6 基本的な生活習慣の育成に関しては、家庭との連携をより強化して共通理解のもとに協働を進めていきたい。また、中学校との連携も充実させ、児童が自分事として進んで取り組み、定着が図れるようとする。
○7 今年度の取組を継続させ、来年度も業務改善が進められるよう取り組む。また、シグフィーや校務支援システム等の有効活用も継続し、効率的に業務が行えるよう取り組んでいきたい。そのためのPTAと学校運営協議会の協力も得ながら、保護者・地域にも理解と協力を呼びかけていく。